



梅雨の合い間に

蝶の受難

藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

681

蝶を見つけて走り回る4歳の孫



んびりと花のみつを求めていますが、孫の来宅は蝶にとって梅雨のあいまの受難(じゅなん)になつてしまった。

この季節、梅雨の合い間という言葉葉を耳にするが、カサプランカが道行く人の目を染しませてくれる。

今年新型ウイルスで世の中は大きく変わつた。梅雨や集中豪雨で緊張も増す。そんな中で花や自然が私に平常心を持たせてくれる。

「花は咲いている時だけが花ではない」は妻の口ぐせ。枯れた花と雑草取りに追われている。



蝶も集まる純白のアナベル

梅雨どきの色を失いがちな花が多いのを横目に、あじさいだけは雨に濡れても花も葉も生き生きと輝いて見える。

梅雨どきに映える七変化の花とも言われる日本のあじさいの出番は今だといえる。

もう一つ、この季節にぐんと背を伸ばす「タチアオイ」。枝にはたくさん蕾(つぼみ)が下から上に咲き進む。花びらをよく見ると運動会のアーチ型の飾りに見え、夏の太陽が照りつける…。こんなパワーカーがこの花のどこにあるのだろうか？と自然の恵みに感謝する。

人類が利用した最古の花のひとつで死者に手向けた花だったらしいこの花がどうやって日本に来たのだろうか？と興味をそそがれる。

てっぺんまでの蕾が咲き終わると梅雨が終ると聞いたことがある。そんな梅雨明けが待たれる昨今である。

受難から逃れた蝶がまた花の間を飛び交う。

先日4歳になる孫が初めて買ってもらった虫取り網を持ってやって来た。

見事に花をつけたピンクのカサプランカや純白の珍しいあじさいもおかまいなし。蝶を追いかけて網を振り回す。孫は可愛いですが、せっかくなので花が私に平常心を持たせてくれる。

「花は咲いている時だけが花ではない」は妻の口ぐせ。枯れた花と雑草取りに追われている。

ところで、今我が家の庭で一番元気なのは「アナベル」。

孫が自宅に帰り、受難が去った蝶が庭を飛び交う。

「アナベル」西洋あじさいとも言ふことはご存知だろうか。日本のあじさい



今年には特に見事に咲いたカサプランカ



庭にはたくさんタチアオイ